

「ヒロシマ」が 鳴り響くとき

能登原由美 [著]

平和を語り継ぐために…

戦後音楽70年の証言

音楽から見たヒロシマ像の歴史的変容と現在
“原爆音楽”に内在するポリティクスの問題圏

アルトネン「ヒロシマ・シンフォニー」から現代日本の作曲家へ、
傑出した創造行為とその演奏史・受容史のありようを照射する試み。

目次より
(全10章構成)

I — 「ヒロシマ」はどのように音に表されてきたか

- 第一章 希望と絶望のベクトル
- 第二章 「ヒロシマ」という物語の表現
- 第三章 当事者と非当事者の間

II — 「ヒロシマ」はどのように演奏されてきたか

- 第四章 東西冷戦と平和運動のなかで
- 第五章 占領からの解放と第五福竜丸事件以後
- 第六章 世界の反戦・反核運動とともに

III — 「ヒロシマ」はどのように聴かれてきたか

- 第七章 「ヒロシマ」というイメージを聴く
- 第八章 「ヒロシマ」に時代を読む音楽
- 第九章 新たな世代における「ヒロシマ」
- 終 章 七〇年目に振り返る「ヒロシマ」と音楽

最新刊
11月25日発売

能登原
Yumi
NOTOHARA

「ヒロシマ」が
鳴り響くとき

春秋
社

四六判上製カバー装
定価(本体2200円+税)

著者の言葉

音楽は時代を映すという。ここで私たちにできることは、自らの目で音楽やその主題に対峙し、享受していくことではないだろうか。今という時代を読み取るために、また予測のつかない未来を生き抜くために。(終章より)

著者略歴

能登原由美(のとら・ゆみ)

広島市生まれ。2003年広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。学術博士。専門は音楽学で、研究対象は「ヒロシマ」の音楽のほか、イギリス音楽史、日本近代の洋楽受容史。著書に『ヒロシマと音楽』(共著、汐文社、2006年)他、論文多数。現在、「ヒロシマと音楽」委員会委員長。

お問い合わせは下記まで

春秋社 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-6 TEL 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384